

MENU | **SEARCH** | **INDEX** | **DETAIL** | **JAPANESE**

1 / 1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-012411
 (43)Date of publication of application : 21.01.1994

(51)Int.CI. G06F 15/20

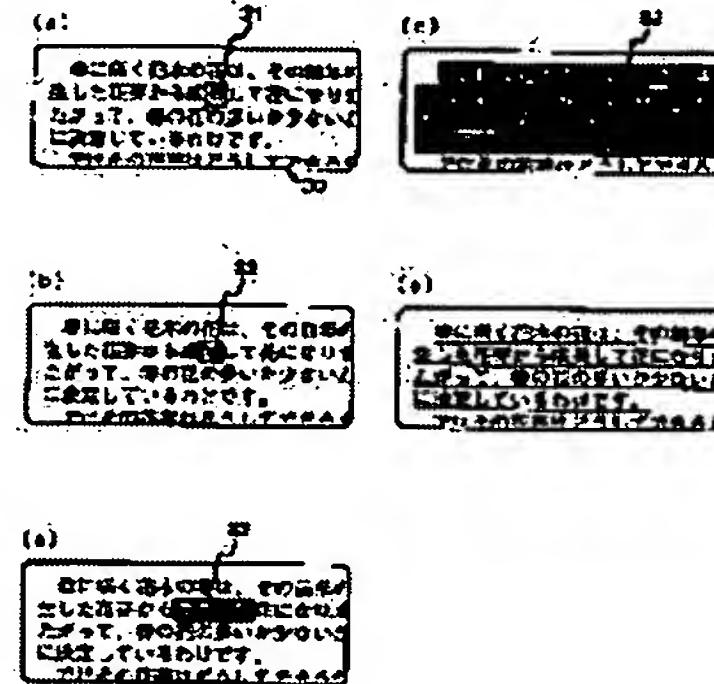
(21)Application number : 04-167533 (71)Applicant : SANYO ELECTRIC CO LTD
 (22)Date of filing : 25.06.1992 (72)Inventor : MATSUO TORU

(54) DOCUMENT PROCESSOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To execute an efficient and ideal document editing processing operation by instructing selectively a desired editing unit from in plural editing units of a character and a sentence, the end of a paragraph, etc.

CONSTITUTION: At the time of designating a cursor position, a cursor 31 is moved into a desired editing area by a cursor moving system of a word processor, and subsequently, an editing unit is selected. The editing unit selection is executed by hitting an editing unit selection key, and by hitting once the editing unit selection key, the processor enters into an editing unit selection mode, and at this time point, 'character' is selected as an editing unit 32. In such a state, when the editing unit selection key is hit continuously twice, three times, four times..., 'word', 'phrase', 'sentence', etc., are selected. In this case, this processor is set in advance so that six kinds of editing units of 'character', 'word', 'phrase', 'sentence', 'end of paragraph', and 'chapter' can be selected in accordance with the number of times of its hit, and in the case its hit is executed seven times or more, 'character', 'word', 'phrase'... are repeated again.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 05.10.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 12.06.2001

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-12411

(43)公開日 平成6年(1994)1月21日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/20

識別記号 庁内整理番号

5 5 4 G 7343-5L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3(全 8 頁)

(21)出願番号

特願平4-167533

(22)出願日

平成4年(1992)6月25日

(71)出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72)発明者

松尾 徹

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋
電機株式会社内

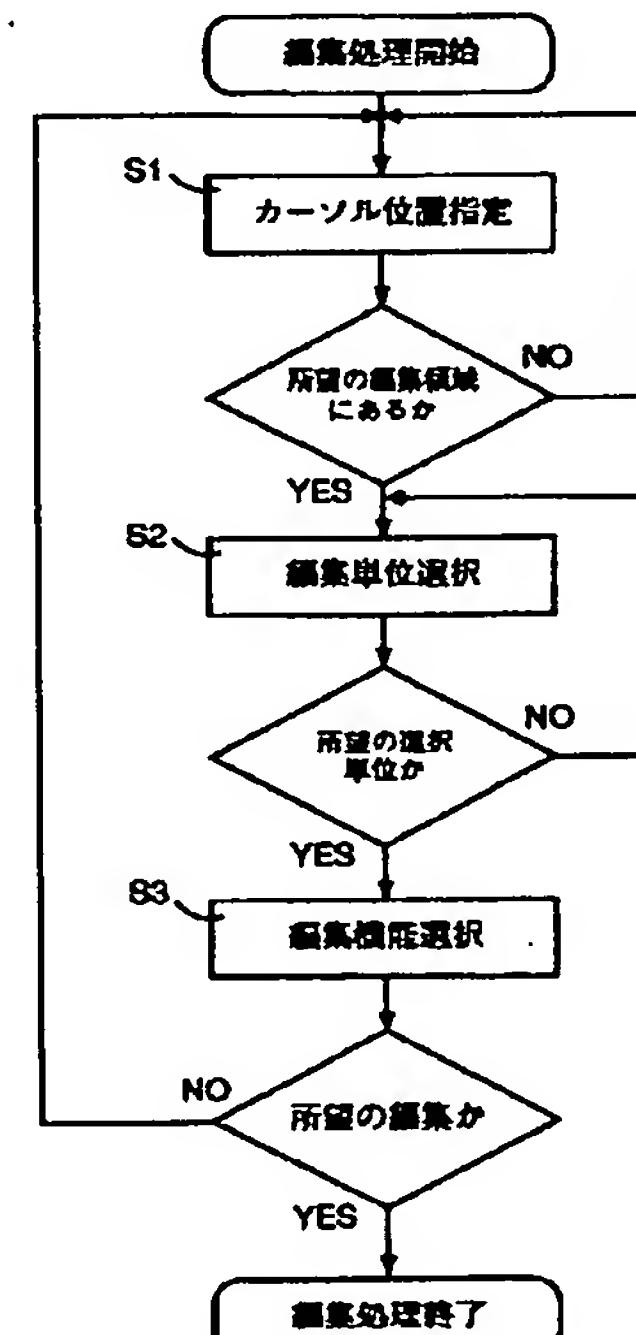
(74)代理人 弁理士 西野 卓嗣

(54)【発明の名称】 文書処理装置

(57)【要約】

【目的】 文書編集や変換などの文書処理において、「文字」、「単語」、「文節」、「文」、などの文章の性質により分離される単位ごとの処理を容易に行うことのできる文書処理装置を提供する。

【構成】 削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集を行う文書処理装置であつて、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示する手段と、その選択指示された編集単位に対し所望の編集機能を指示する手段と、を備えたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集を行う文書処理装置であつて、
文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示する手段と、
前記選択指示された編集単位に対し所望の編集機能を指示する手段と、を備えたことを特徴とする文書処理装置。

【請求項2】上記編集単位を選択指示する手段は、所望の編集単位を含む領域にカーソルを移動させるカーソル移動キーと、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示する編集単位選択キーからなることを特徴とする請求項1記載の文書処理装置。

【請求項3】上記所望の編集機能を指示する手段は、削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集の中から所望の編集機能を選択指示する編集機能呼び出しキーからなることを特徴とする請求項1記載の文書処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、文書処理装置に関し、特に削除や移動、置換、文字修飾などの文書編集機能を備えた文書処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の文書処理装置（以下、ワードプロセッサと称する）において、かな文字から漢字等の文書変換機能は、ディスプレイの画面上で、カーソルによりあるいはカーソル移動により変換対象を選択表示し、例えば変換処理キーを押下することで該当箇所の変換処理ができる。この場合、ワードプロセッサの機種によっては、変換対象の選択をカーソルの位置により示される「文字」だけでなく、その「文字」を含む「文節」あるいは「文」として自動的に選択し、変換対象の候補を表示するものもある。

【0003】一方、上記従来のワードプロセッサにおいて、削除や移動、メモリなどの文書編集は、「文字」あるいは「行」を編集の1単位として処理される。即ち、図2に示す如く、カーソルの位置21により示される「文字」のみ（図2（a））が、あるいはカーソルを行頭などの所定の位置で移動させることで選択される「行」22のみ（図2（b））が、編集の対象となる単位であり、この部分について削除や移動、置換、メモリなどの文書編集が可能となる。また、アンダーラインや網掛け、サイズ変更などの文字修飾編集についてはカーソルの位置する「文字」あるいはカーソルの移動により選択された「文字群」のみ（図2（c））の編集しか行

えない。

【0004】本来、文書処理は、ワードプロセッサの使用に係わらず、文書の性質により分離された単位（文書を構成する個々のセグメント）ごとに行われるものである。即ち、文書を文章中の内容により分離される大まかなセグメント「段落」、まとまった事柄の記述を示すセグメント「文」、文を意味上、発音上、不自然でない程度に分解したときのセグメント「文節」、文節を構成するセグメント「単語」、さらに文書を構成する最小セグメント「文字」などの種々のセグメントから適当なセグメントを抽出してセグメントごとに文書処理は行われる。

【0005】従って、ワードプロセッサによる文書編集や変換などの文書処理も、同様に文書の性質により分離された単位ごとに行うことで、効率的に行うことができる。しかし、従来のワードプロセッサにおいては、削除や移動、置換、メモリなどの文書編集の対象となる単位の選択は、カーソルの位置により機械的に決定されるものであって、文書の性質により決定されるものではなかった。そのため、文書処理操作の効率性が悪いという欠点があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記問題に鑑み、ワードプロセッサによる文書編集や変換などの文書処理において、「文字」、「単語」、「文節」、「文」、「段落」、「頁」あるいは「全文」などの文章の性質により分離される単位ごとに処理を行うことできる文書処理装置を提供するものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の文書処理装置は、削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集を行う文書処理装置であつて、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示する手段と、前記選択指示された編集単位に対し所望の編集機能を指示する手段と、を備えたことを特徴とする。

【0008】また、前記編集単位を選択指示する手段は、所望の編集単位を含む領域にカーソルを移動させるカーソル移動キーと、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示する編集単位選択キーからなることを特徴とする。

【0009】さらに、前記所望の編集機能を指示する手段は、削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集の中から所望の編集機能を選択指示する編集機能呼び出しキーからなることを特徴とする。

【0010】

【作用】本発明の文書処理装置によると、削除や移動、置換、メモリなどの文書編集、あるいはアンダーライン

や網掛けなどの文字修飾編集において、文字や文章、段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示することができるため、マニュアル操作によるカーソル移動で編集単位を選択表示する場合に比べ、効率的に文書編集処理操作が行える。

【0011】また、前記編集単位を選択指示する手段は、所望の編集単位を含む領域にカーソルを移動させ、編集単位選択キーをヒットする（押し下す）ことで、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を容易に選択指示することができる。

【0012】さらに、前記所望の編集機能を指示する手段は、編集機能呼び出しキーをヒットすることで、削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集の中から所望の編集機能を容易に選択指示することができる。

【0013】

【実施例】図1に本発明の文書処理装置の文書編集処理のフローチャートを示す。本発明における文書編集処理は、図1に示す如く、大まかに分けてカーソル位置指定S1及び編集単位選択S2、編集機能選択S3から形成される。

【0014】図3は本発明の一実施例の文書処理装置の文書編集処理の様子を示すディスプレイ表示である。

【0015】以下に本発明一実施例の文書処理装置の文書編集処理を説明する。

【0016】まず、カーソル位置指定S1において、ワードプロセッサのカーソル移動方式により所望の編集領域内へカーソル31を移動する（図3（a））。カーソル31の位置を指定したら、続いて編集単位選択S2を行う。

【0017】図4は、本実施例の文書処理装置における編集単位選択（処理）（S2）を示すフローチャートである。

【0018】編集単位選択S2では、編集単位選択キーをヒットする（押し下す）ことで行う。本実施例では、編集単位選択キーを1回ヒットすることで、編集単位選択モードに入る。この時点では、編集単位32としては「文字」が選択されている。選択された編集単位は、例えば、選択部の文字反転（図3（b））や輝度変化などにより使用者に判りやすいうようにディスプレイに表示される。編集単位選択キーを続けて2回、3回、4回...とヒットすれば、「単語」、「文節」、「文」等が選択される。本実施例では、編集単位選択キーのヒット回数により「文字」、「単語」、「文節」、「文」、「段落」、「章」の6種の編集単位が選択できるように設定されており、7回以上のヒットは、図5（a）に示す如く、再び「文字」、「単語」、「文節」...が繰り返される。さらに、ワードプロセッサにおける「前変換キー」により「文節」、「単語」、

「文字」、「章」...と逆方向の選択が行える。また、本実施例では、編集単位選択キーのヒットにより、「文字」、「単語」、「文節」...と順次上位概念の集合群が選択されていくが、例えば、「編集単位選択確認キー」などを設けることで、あるいはカーソル移動キーとの組み合わせにより、図6に示す如く、選択される集合群が単語毎あるいは文節毎に順次増大させて選択されてもよい。図6は、最初に単語「成長41」が選択された場合、選択される集合群をその後方に「成長して」

10 「成長して花」43、「成長して花に」44...と単語毎に順次増大させた時の様子を示す。

【0019】このようにして「文節」を編集単位32として選択したところを図3（c）に、「段落」を編集単位32として選択したところを図3（d）に示す。編集単位選択S2は、例えば、編集単位選択モードに設定する編集単位選択モードキーと所望の編集単位を選択する編集単位選択キー（ワードプロセッサの「変換キー」）の組み合わせにより行ってもよい。

【0020】また、他の実施例として、図4に示す如く、編集単位選択S2は、編集単位メニューの表示（M1）により行うこともできる。この方法では編集単位選択モードに入った後、編集単位メニューの呼び出し、それらの中から所望の編集単位を選択し（M2）、キー入力することで行う。この時、例えば、編集単位メニューをワードプロセッサの「漢字辞書キー」により呼び出し、表示された編集単位（図5（b））の中から所望の編集単位番号を入力して行う。

【0021】本実施例の編集単位選択S2は、例えば、以下に定義される編集単位選択基準に基づいて行われる。

- (1) 「文字」：カーソルが位置する位置の1文字。
- (2) 「単語」：カーソルが位置する位置を含む1単語、この時の「単語」は、文書処理装置の辞書に単語登録されているものに限る。
- (3) 「文節」：カーソルが位置する位置を含む1文節、この時の「文節」は、上記「単語」の組み合わせから形成される。
- (4) 「文」：カーソルが位置する位置を含む1文、この時の「文」は、「句点（。）」で閉じられている文字群により形成される。
- (5) 「段落」：カーソルが位置する位置を含む1段落、この時の「段落」は、「文頭の1空白（スペース）」から次の「文頭の1空白（スペース）」までの文字群により形成される。
- (6) 「章」：カーソルが位置する位置を含む1章、この時の「章」は、「文頭の1行空白」から次の「文頭の1行空白」までの文字群により形成される。

【0022】編集機能選択S3は、所望の編集単位が確定した後、キーボード上の「削除」、「メモリ」、あるいは「サイズ変更」、「アンダーライン」、「網掛け」

及び「白抜き」などと各種機能の名称が印された編集機能キーをヒットすることで行う。

【0023】また、編集機能選択S3は、編集機能呼び出しキーをヒットすることで、削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集機能、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集機能メニューを画面上に呼び出し、これらの中から所望の編集機能を選択指示してもよい。図3(e)に、所望の編集機能として、「アンダーライン」を選択した場合を示す。

【0024】このように本発明の文書処理装置によると、削除や移動、置換、メモリなどの文書編集、あるいはアンダーラインや網掛けなどの文字修飾編集において、文字や文章、段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示することができるため、マニュアル操作によるカーソル移動で編集単位を選択表示する場合に比べ、文書の性質により分離された単位ごとに効率的な文書編集処理操作を行うことができる。

【0025】また、前記編集単位を選択指示する手段は、所望の編集単位を含む領域にカーソルを移動させ、編集単位選択キーをヒットすることで、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を容易に選択指示することができる。

【0026】

【発明の効果】本発明の文書処理装置によると、削除や移動、置換、メモリなどの文書編集、あるいはアンダーラインや網掛けなどの文字修飾編集において、文字や文章、段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を選択指示することができるため、従来の文書処理装置におけるマニュアル操作によるカーソル移動編集単位を選択する場合あるいはカーソル位置により機械的に編集単位が選択される場合に比べ、文書の性質により分離された単位ごとに効率的かつ理想的な文書編集処理操作を

行うことができる。

【0027】また、本発明の文書処理装置によると、編集単位を選択指示する手段は、所望の編集単位を含む領域にカーソルを移動させ、編集単位選択キーをヒットする（押し下す）ことにより行うため、文字、文章及び段落などの複数の編集単位の中から所望の編集単位を容易に選択指示することができる。

【0028】さらに、本発明の文書処理装置によると、所望の編集機能を指示する手段は、編集機能呼び出しキーをヒットすることにより行うため、削除、移動、置換及びメモリなどの文書編集、あるいはサイズ変更、アンダーライン、網掛け及び白抜きなどの文字修飾編集の中から所望の編集機能を容易に選択指示することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の文書処理装置による文書編集処理のフローチャートを示す図である。

【図2】従来の文書処理装置の文書編集処理における編集単位の選択操作を示す説明図である。

【図3】本発明一実施例の文書処理装置による文書編集処理を示す説明図である。

【図4】本発明一実施例の文書処理装置による文書編集処理における編集単位の選択操作のフローチャートを示す図である。

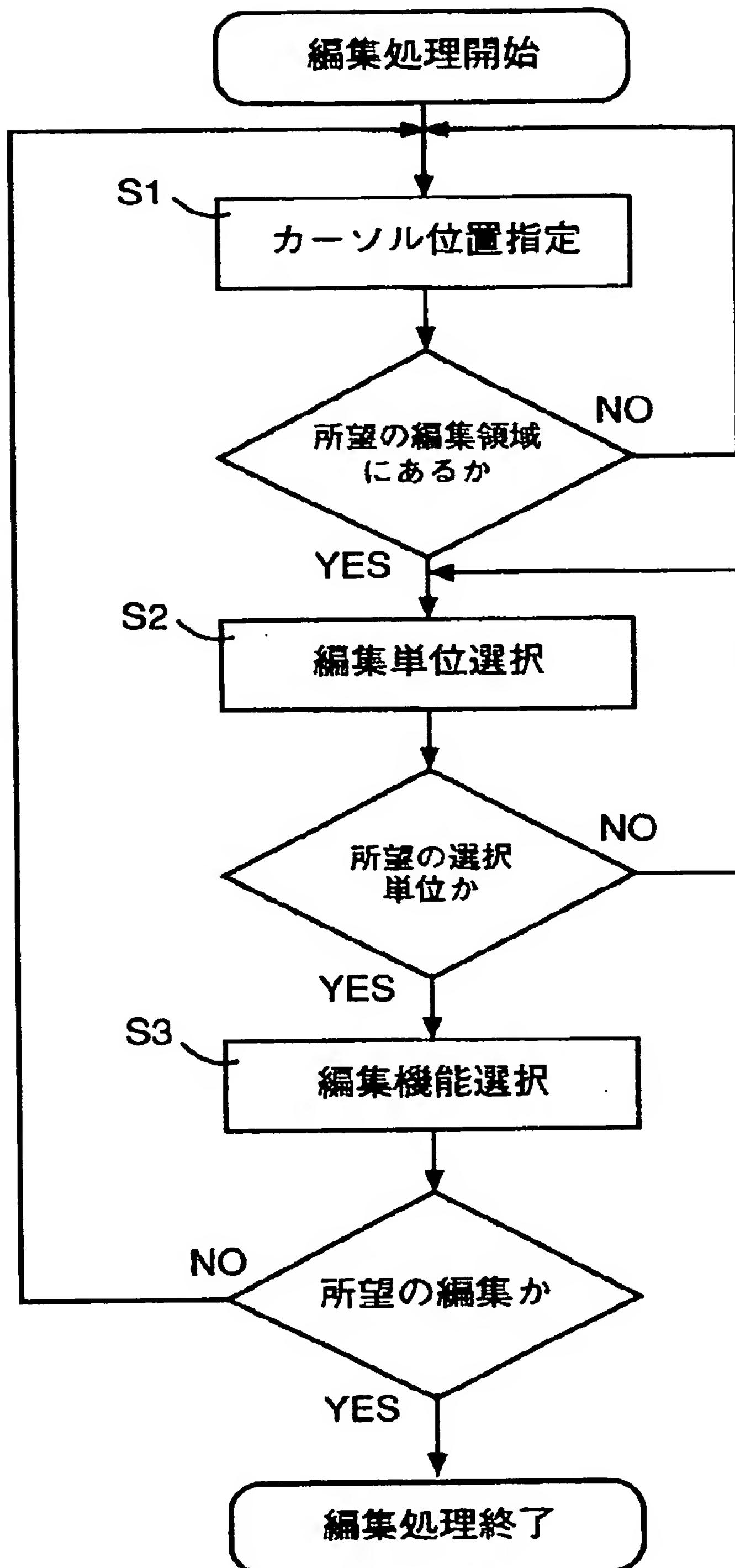
【図5】本発明一実施例の文書処理装置による文書編集処理における編集単位選択操作を示す説明図である。

【図6】本発明の他の実施例の文書処理装置による文書編集処理における編集単位選択を示す説明図である。

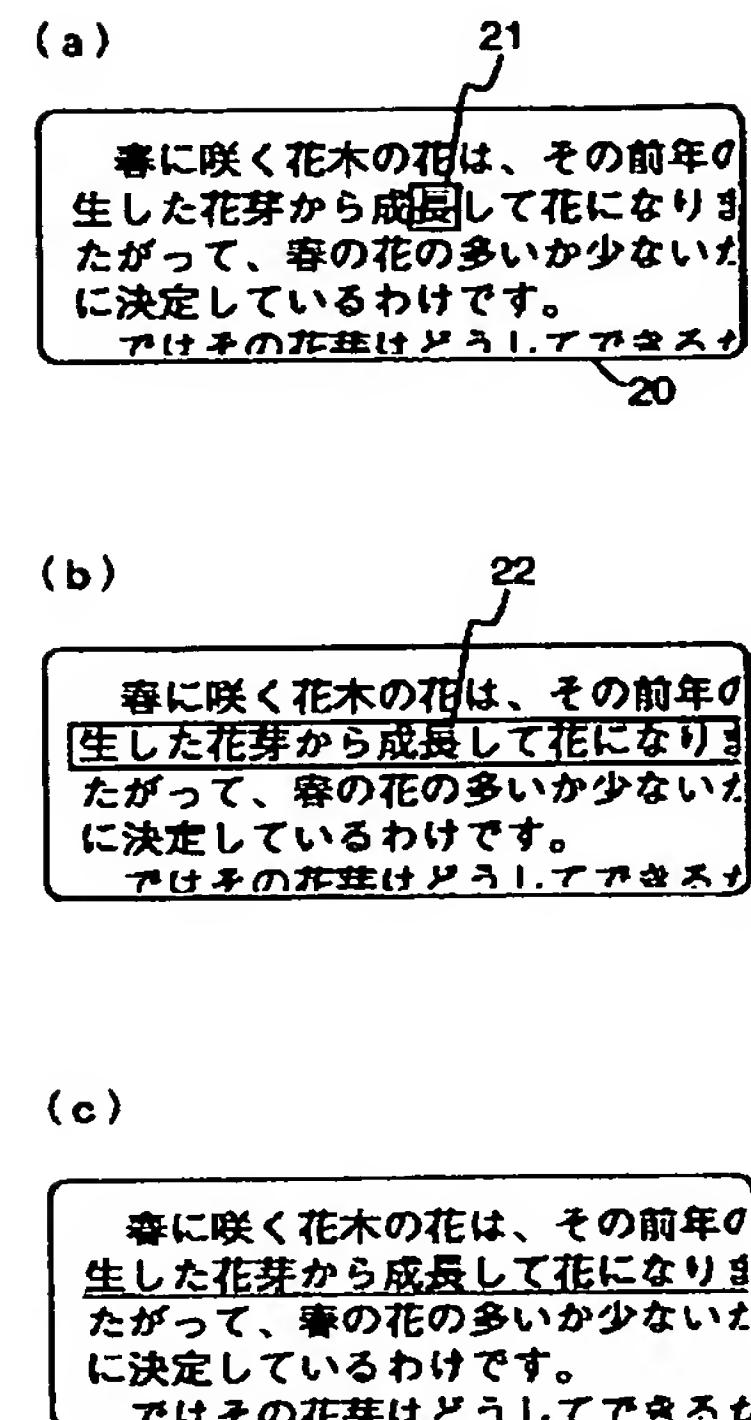
【符号の説明】

30	20、30	ディスプレイ画面の一部
	31	カーソル
	32	編集単位

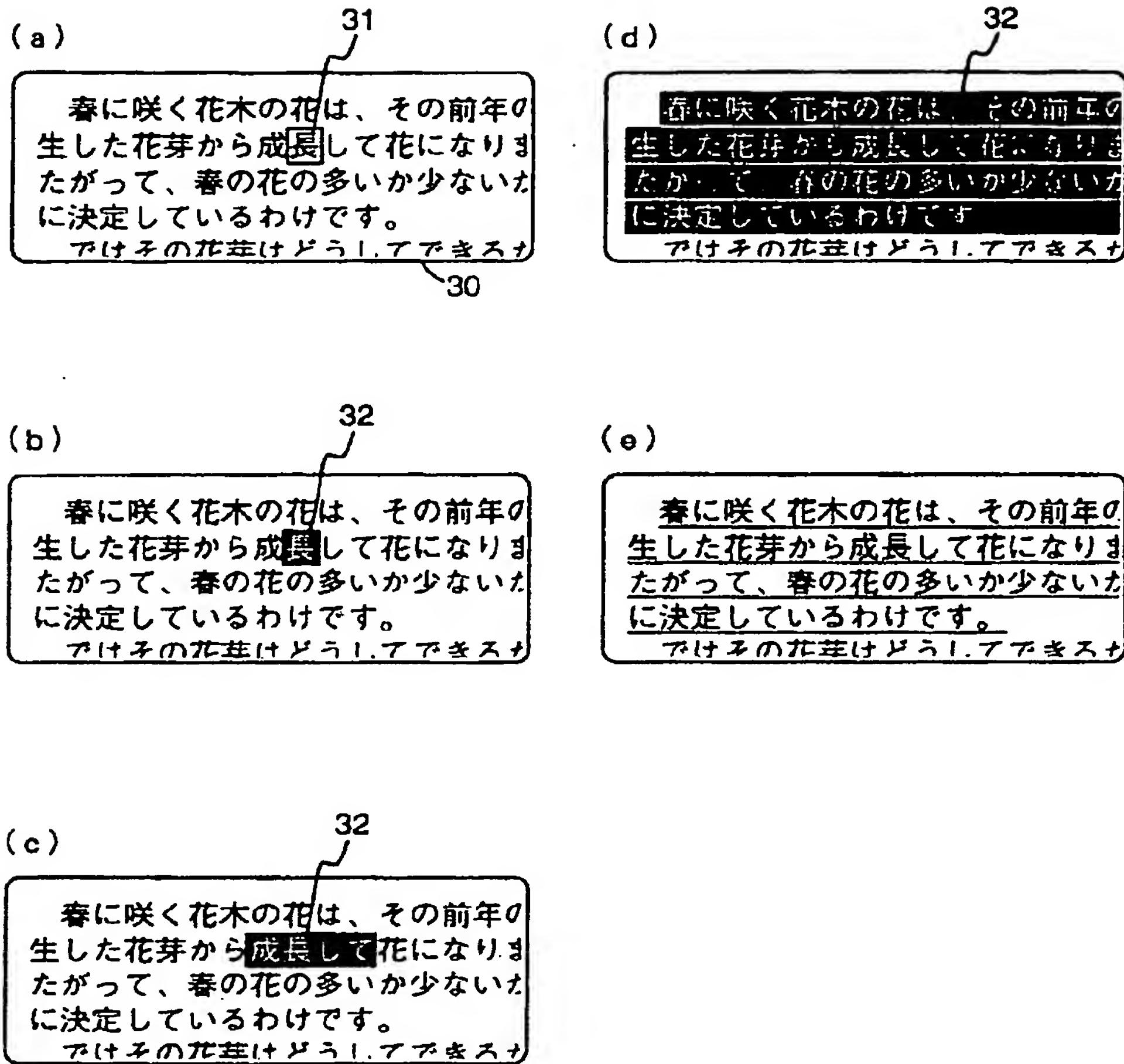
【図1】



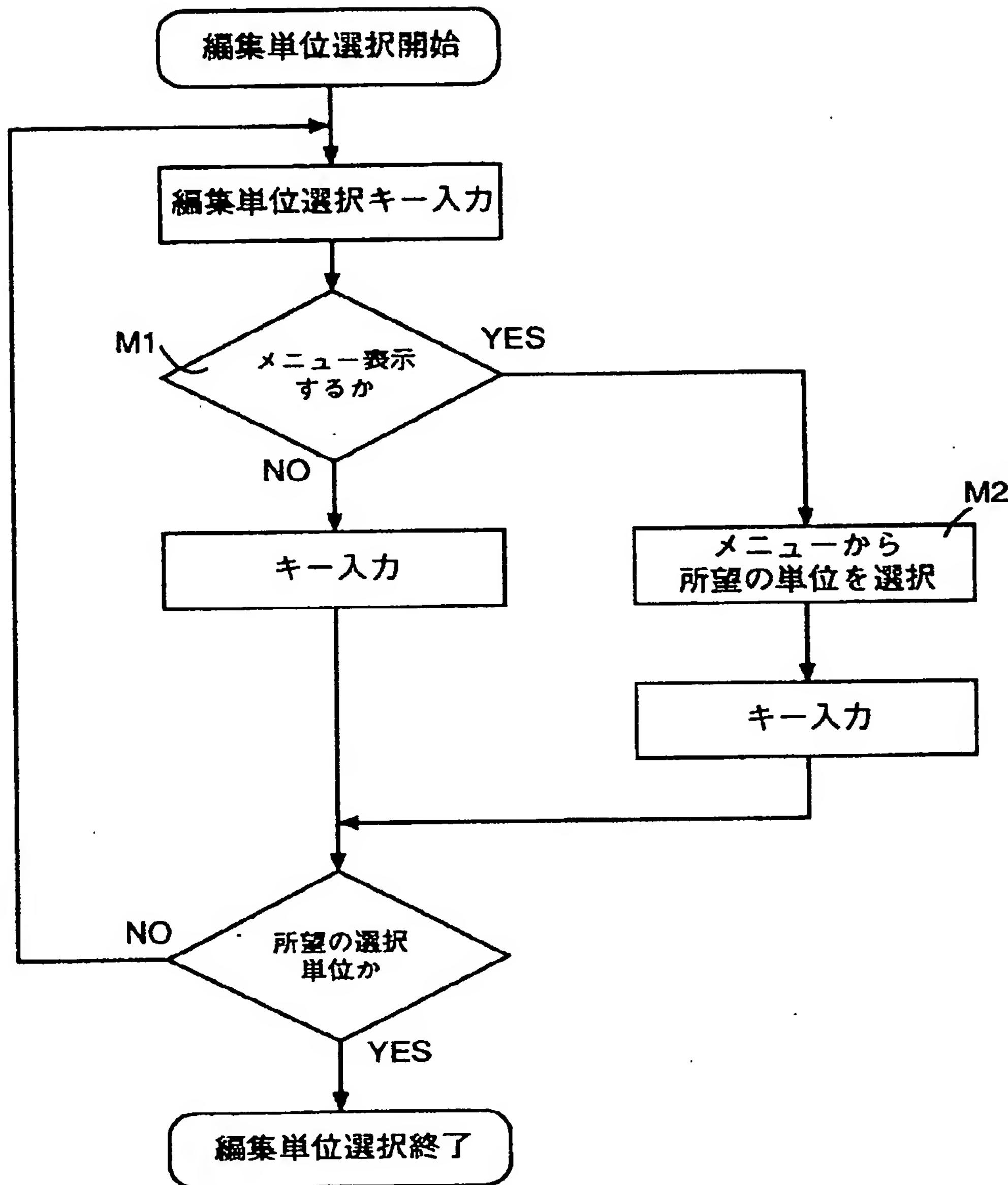
【図2】



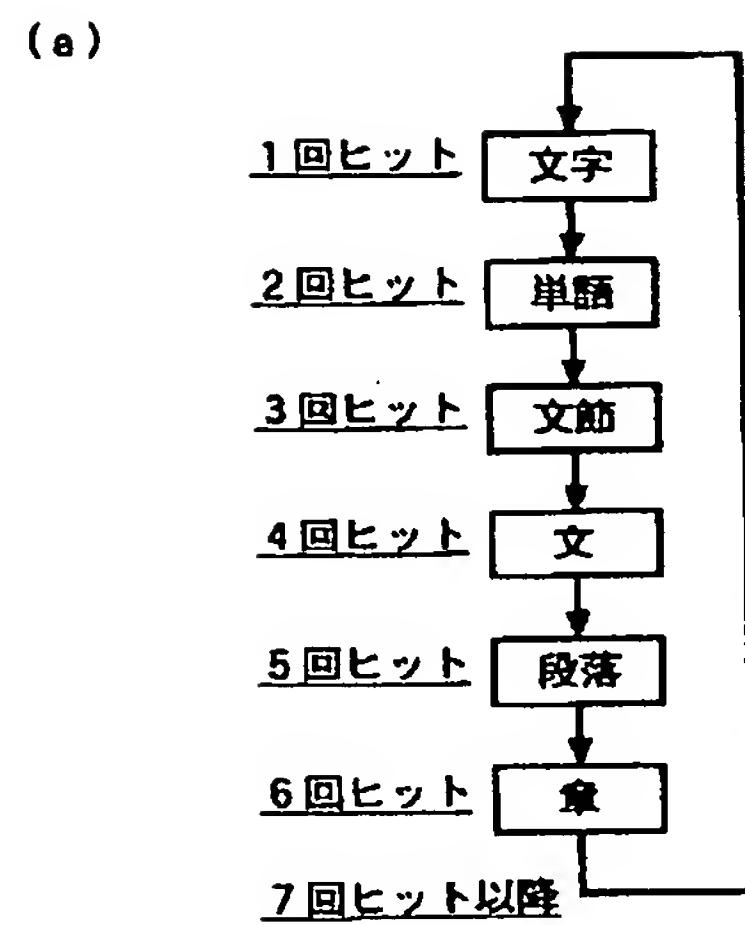
【図3】



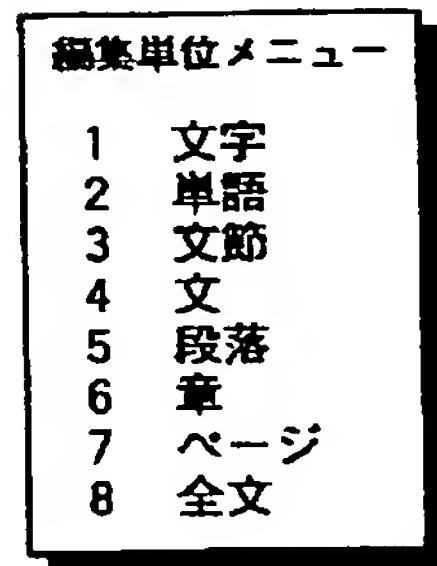
【図4】



【図5】



(b)



【図6】

(a) 41
春に咲く花木の花は、その前年の夏に~~まつ~~生した花芽から~~まつ~~して花になります。たがって、春の花の多いか少ないかは前年に決定しているわけです。
ではその花芽はどうしてできるか。サ!

(b) 42
春に咲く花木の花は、その前年の夏に~~まつ~~生した花芽から~~まつ~~して花になります。たがって、春の花の多いか少ないかは前年に決定しているわけです。
ではその花芽はどうしてできるか。サ!

(c) 43
春に咲く花木の花は、その前年の夏に~~まつ~~生した花芽から~~まつ~~して花になります。たがって、春の花の多いか少ないかは前年に決定しているわけです。
ではその花芽はどうしてできるか。サ!

(d) 44
春に咲く花木の花は、その前年の夏に~~まつ~~生した花芽から~~まつ~~して花になります。たがって、春の花の多いか少ないかは前年に決定しているわけです。
ではその花芽はどうしてできるか。サ!